

株式会社ドトール・日レスホールディングス

URL <http://www.dnh.co.jp>

本社 東京都渋谷区猿楽町10番11号

TEL 03-5459-9178 (代表)

**DOUTOR**

株式会社ドトールコーヒー

[www.doutor.co.jp](http://www.doutor.co.jp)

**NRS**

日本レストランシステム株式会社

[www.n-rs.co.jp](http://www.n-rs.co.jp)



環境保全のため、FSC認証紙と大豆油インキを使用して印刷しています。



株式会社ドトール・日レスホールディングス  
2008年2月期 報告書

REPORT Vol.1

CONTENTS

株主の皆様へ	1	経営戦略Q&A	5	連結財務諸表	13
連結決算ハイライト	3	レポート! 新業態デビュー	9	会社概要	15
事業会社の営業状況	4	紹介! ホット・メニュー	11	株式情報	17



### ドトルコーヒーショップ



セルフサービス  
コーヒーショップ  
のパイオニア。幅  
広い客層をカバー  
する業界のトップ  
チェーン。



### エクセルシオール カフェ



本格的なエスプ  
レッションの味が楽し  
める。ハイグレード  
なイタリアンパー  
ルがコンセプト。



### カフェ マウカメドウズ



ハワイ島の直営農  
園で収穫される最  
高級のコナコー  
ヒーと、焼きたて  
ワッフルを提供。



おもてなしのプロで  
もある“バリスタ”が  
常駐し、日常的にご  
利用いただける  
“Mio Bar(ミオパー  
ル=私のパール)”



気軽にイタリアン  
テイストを楽しめ  
るスパゲッティ  
ハウス。オリジナ  
ル開発した生麺が  
自慢。



### フォーヒーの店 コロラド



地域密着型のコー  
ヒー専門店。充実  
したフードメニュ  
ーや、コーヒー豆・器  
具の販売も。



### LE CAFÉ DOUTOR GINZA



超一等地に照準を  
合わせたドトル  
の最高級セルフ業  
態。エスプレッソ  
ブームの先駆け。



普通が素敵な女性  
のためのスイーツカ  
フェ。有機小麦を使  
用したワッフルや1  
00%天然素材のジ  
ェラートなどを提  
供。

## 「飲」と「食」の融合。新しい外食文化の発信を開始しました。



創作和風と本格派の洋  
風スパゲッティの代  
表ブランド。ゆであ  
げスパゲッティ専門  
店。



無農薬・減農薬の農  
作物、無添加・無着  
色の食材にこだわ  
った、体に優しい  
自然食レストラン。



京野菜をテーマに、  
調味料や具材につ  
いても京風のもの  
を中心に仕上げた  
京風パスタ専門  
店。



福島産の伊達地  
鶏を使用し、炭火  
で焼き上げる自  
慢の焼き鳥を中  
心に地鶏料理の  
専門店。



黒豚のしゃぶしゃ  
ぶをはじめとし、  
黒豚料理と相性  
の良い焼酎を存  
分に味わえる専  
門店。



インドから直輸入  
した高級の紅茶と、  
オリジナルティ  
ー溢れる手づくり  
ケーキが自慢の  
カフェ。



ヨーロッパの田  
舎にあるプチレ  
스토랑のような  
雰囲気のある  
ふわふわオム  
ライスの専門  
店。



有機野菜・惣菜  
をはじめとして、  
産地直送の安全  
・安心な食材を  
多数取り揃えた  
自然食品の店。

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は当社事業へのご理解とともに格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2007年10月1日に、株式会社ドトルコーヒーと日本レストランシステム株式会社の経営統合により発足し、当期は経営統合後ホールディングカンパニーとしての初決算を迎えることができました。

当期につきましては、年間計画に基づく新商品の展開やサービスの向上に注力することで既存店の活性化に努めた結果、お陰様でほぼ計画通りの売上高を確保することができました。しかしながら、原材料の高騰による原価アップや経営基盤強化のための人材採用と教育・育成などの経費が高まったことにより、利益については計画を下回る結果となりました。

景気の先行きが不透明感を増す中、外食業界を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、「飲」と「食」の融合による新しい外食文化を発信し、エクセレント・リーディングカンパニーとしての地位確立を目指してまいります。

当社は新体制のもと、統合効果の追求に努め、早期に具体化することで成長を加速していく所存です。株主の皆様には、変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2008年5月

代表取締役会長 **山内 実** 代表取締役社長 **星野 正則**

# FINANCIAL HIGHLIGHT

連結決算ハイライト

## 当期のポイント

- グループ連結売上高1,000億円超
- グループ連結経常利益100億円超
- 磐石な財務基盤。自己資本比率82.8%
- 1株当たり25円の期末配当実施(次期より中間配当実施予定)

連結売上高

101,314  
百万円

連結営業利益

10,004  
百万円

連結経常利益

10,434  
百万円

連結当期純利益

5,453  
百万円

連結1株当たり当期純利益

108.07円

連結自己資本比率

82.8%

# BUSINESS REVIEW

事業会社の営業状況

## ドトールコーヒー

当期は、お客様の心の奥底にある期待感に応えるサービスの展開を図り、年間計画に沿った季節ごとの新商品の導入やキャンペーンの実施などによる単価の高い商品の販売が好調に推移しました。また、主力業態であるドトールコーヒーショップ及びエクセルシオール カフェにおいて、ともに客数で前年比を上回ることができました。

なお、当期においては、「バリッショ」や「ごちそうグリル」など、立地に合わせた新業態を開発し、新たな収益源としての展開を図ってまいりました。

卸売事業部門では、キャンペーン効果による既存店の単価アップが奏功し、売上を順調に伸ばすことができました。また、一般卸において、コンビニ向けチルドの新商品を積極的に展開するとともに、ドリップやコーヒー原料の販路拡大に注力したことでほぼ計画通りの結果を残すことができました。

売上高/経常利益



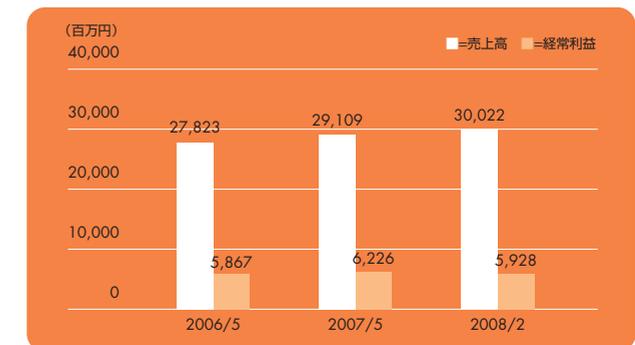
(注)2008年2月期は2007年3月から2008年2月の1年間となっております。

## 日本レストランシステム

当期は、商品政策面では、味に徹底的にこだわり商品の価値を高めることとサービスの向上に注力し、「洋麺屋五右衛門」等の新メニューの開発を行うほか、季節感を取り入れたおすすめメニューを強化し既存店の活性化に努めました。業態開発面では、「俵屋じゅう兵衛」、「若軍鶏」、「麦とオリブ」、「カフェ ブーケ」などの新業態を開発しました。

また、食の安全・安心・健康に対して消費者の意識が高まる中、自然食レストラン「さんるーむ」、物販で自然食品の店「F&F」を展開してまいりました。当期は、更にこの分野で無添加ハム等を製造する子会社を設立した他、インターネットを利用した通信販売の関連会社を設立し、また、有機・低農薬と無添加食品の宅配事業を展開するらでいっしゅぼーや株式会社と資本業務提携を締結しました。この分野は、レストラン、物販、通信販売、宅配とラインナップを整え、拡大が予想されるマーケットに対応していく所存であります。

売上高/経常利益



# MANAGEMENT STRATEGY

経営戦略Q&A

## 企業価値の最大化とともに目指す エクセレント・リーディングカンパニー。

### 統合初年度を総括、その結果と課題についてお聞かせください

株式会社ドトール・日レスホールディングスは、昨年10月に、株式会社ドトールコーヒーと日本レストランシステム株式会社の経営統合により発足いたしました。これも偏に株主の皆様のご支援の賜物と感謝しております。

経営統合後、当社では統合事務局を設置するとともに、各部門間における分科会を定期的に行うことで、事業内容や取引内容などの確認作業を精査してまいりました。また、両社の文化の共有、意思確認を進めることができましたと思っています。

次期については、ホールディングスの基盤となる各事業会社の強化を図るとともに、意思決定のスピードを上げることにより、業態開発や店舗展開、コスト管理などの統合効果の具現化を図っていく所存です。

### 両社のポテンシャルを引き出す統合効果についてお聞かせください

日本レストランシステムとドトールコーヒーは、「業態開発力」と「店舗展開力」、「直営」と「フランチャイズ」、「食」と「飲」など、高い相互補完性と強い財務基盤、そして将来に向けた競争力を持つ企業グループを形成するために、経営統合いたしました。

今後、新事業開発や新規出店開発、コスト管理の徹底など、両社の持つ強みを更に強化・発展させながら、両社の持つ経営資源とノウハウの融合により、企業グループ価値の最大化を推進していきます。



### Q 外食産業を取り巻く事業環境の変化についてお聞かせください

現在の外食業界を取り巻く環境は非常に厳しいものであると認識しております。原油価格の高騰をはじめ、コーヒー豆・小麦・肉・魚などの原材料価格が急上昇し、人件費や資材に至るまでを含め、今後更に価格が高まる見通しとなっております。また、昨年来、食品を取り扱う企業の事件が多発し、食の安全性確保が社会的命題となっております。これらの問題につき、ドトール・日レスホールディングスとして、お客様の信頼を損なわぬよう真剣に取り組んでまいります。

当社ではこのような厳しい経営環境の中、お客様ニーズに応え、顧客満足度を向上させるための取り組みに注力します。継続的なメニュー開発、接客・サービスの向上、店舗の分煙・改装の推進といった徹底した現場第一主義をもとにした取り組みにより、経営基盤を再強化し、加えてこれまで以上の安全・安心をお届けできる企業としていく所存です。

当社は、お客様のお役に立つことを全ての基準として、多様化したお客様の心の奥底にある期待感に応えることに全力を尽くしてまいります。

### Q ドトールコーヒーのメニュー価格改定の背景についてお聞かせください

現在、原油価格の高騰をはじめ、コーヒー豆・小麦・肉・魚などの原材料価格が急上昇し、人件費や賃料、資材に至るまでを含め、今後更に価格が高まる見通しとなっております。

ドトールコーヒーの本部と加盟店では、店舗の効率化を徹底するとともに、取引先の協力のもと継続的な新商品開発や物流改革を行い、また品質を落とさずに管理工程などのオペレーションを変更するといったあらゆる対応策を図ることで、販売価格を据え置いてまいりました。

しかしながら、昨今のコーヒー豆相場をはじめとする原材料費の異常なまでの急騰は内部努力による吸収では賄いきれない状況と判断し、大変遺憾ながら、このたび価格改定に踏み切らざるを得ない状況に至りました。

ドトールコーヒーは、“やすらぎと活力”をお客様にお届けするため、最高のクオリティーをこれまで以上に徹底して追い求め、また、スタッフの意識・能力向上に注力することで、お客様への心のこもったおもてなしを提供することにより、更なる進化を遂げていく所存です。

### 2011年2月期に向けた 3か年計画について お聞かせください

当社は、「外食業界における日本一のエクセレント・リーディングカンパニーになる」ことを経営計画の基本方針といたします。

このたびの中期経営計画においては、①既存事業の再強化、②効率化の徹底、③新規出店、④内部統制強化によるガバナンス体制の確立とコンプライアンス遵

守を重点施策として、3年後の2011年2月期には、売上高1,221億円、営業利益134億円、経常利益139億円、当期純利益78億円の達成を目標としております。

### 株主の皆様へのメッセージを お願いします

当社は、フランチャイズシステムを活用した店舗展開力と開発力を強みとして品質・サービス・店作りを極めたドトールコーヒーと、外食ビジネスを広範囲にカバーするノウハウとマーケティングをもとに、数多くの優れた業態と独創的なメニューを創出する日本レストランシステムの「飲」と「食」の融合による新しい外食文化の発信を行ってまいります。

激しく変化する経営環境を迅速に察知し、すばやく的確に対応することで、来店されるお客様の満足を生み、地域社会に愛され、株主価値の向上そして企業価値の最大化を目指していく所存です。

株主の皆様には、当社の成長性と将来性にご期待いただき、変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

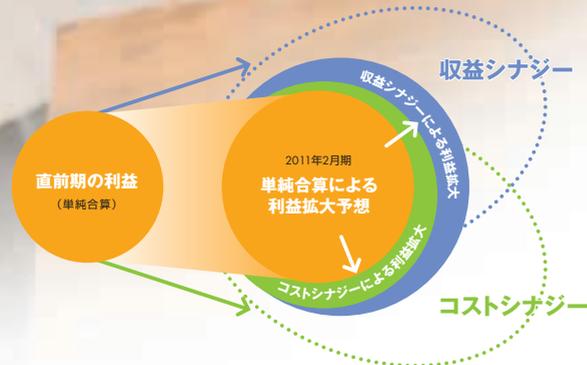
### 次期における課題とその取り組み 業績予想について お聞かせください

次期の見通しといたしましては、原油高に伴う原材料価格の上昇や企業収益の鈍化懸念もあり、不透明な状況が予想されます。個人消費につきましても、生活必需品をはじめとした消費者物価の上昇などにより、一層不透明感を増していると思われま

す。このような厳しい環境の中ではありますが、当社では既存店の活性化や新規店舗の展開、またメニュー政策によるコスト削減や共同調達などによる統合効果の具現化に注力することで、2009年2月期は、売上高1,078億円、営業利益110億円、経常利益116億円、当期純利益65億円を計画しております。なお、新規出店については、フランチャイズ店舗を含め、120店舗程度を計画しております。

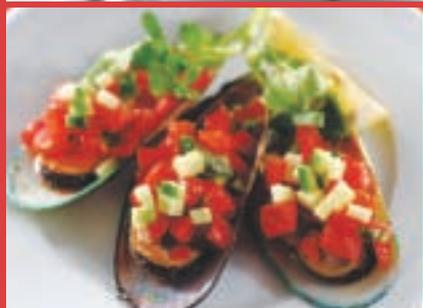
#### シナジーによる利益拡大予想

経営統合によるシナジー効果で、単純合算による利益拡大に加え、収益シナジー、コストシナジーにより更なる利益拡大を実現します。



売上高／経常利益目標(グループ連結)





写真上:カプチーノ  
写真下:冷製バーナ貝

### バリッシモ



## REPORT! 新業態

# Debut デビュー

### 新業態(バリッシモ)

## 暮らしのそばに本格的イタリアンバー



「BARISSIMO」の命名由来は、コーヒーのスペシャリストであり、おもてなしのプロでもある「バリスタ」と、イタリア語で最上級を意味する「-issimo」からなる造語で、日本で最高のイタリアンバーを追求するという想いが込められています。

「バリッシモ」では、カフェメニュー(20種類以上)だけでなく、ビールやワイン、カクテルなどアルコールメニュー(40種類以上)やアンティパスト(20種類)をご用意し、モーニング～ランチ～ティータイム～パーティタイムと時間帯ごとのニーズに合わせた商品とくつろぎの空間を提供します。また、デザインカプチーノをはじめとしたクオリティーの高いコーヒーを淹れるスペシャリストであり、おもてなしのプロでもある「バリスタ」が常駐し、お客様との豊かなコミュニケーションの場を演出します。

これまでドトールの既存ブランドでは不十分だった、仕事帰りにふらっと立ち寄り、アルコールを飲みながら、気軽に楽しめる空間として、パーティタイムにおける顧客獲得を視野に置いた、「ドトールコーヒーショップ」、「エクセルシオール カフェ」に続く、第3の柱としての展開を図り、多くのお客様が日常的にご利用いただける「Mio Bar(ミオバー=私のバー)」を目指しております。

### 新業態(麦とオリーブ)

## 自然食のスパゲッティ専門店



「麦とオリーブ」は、自然食のスパゲッティ専門店です。コンセプトは、ずばり「オーガニックとベジタブル」。メインとなるスパゲッティとオリーブオイルは本場イタリアより直輸入し、全国各地から取り寄せた安全・安心野菜を使ったオリジナリティーあふれるメニューです。

メニューの構成は、野菜たっぷりのスパゲッティはもちろんのこと、サイドメニューのサラダ、お店で仕込むフレッシュベジタブルジュース、スイーツに野菜を取り入れた「ベジスイーツ」等、野菜感あふれるメニュー構成となっております。また、これらの全てのメニューをフルコースで楽しめる「ベジタフルコース」等のセットメニューを用意し、他店との差別化を図っております。店内の内装は、オーガニック感のあるナチュラルな色合いと、木、和紙等の和素材を使うことで、落ち着いた雰囲気店内となっております。

「麦とオリーブ」は、これまでスパゲッティのメインブランド「洋麺屋五右衛門」をはじめとするスパゲッティブランドで培ったノウハウと、自然食レストラン「さんるーむ」等で培った「自然食・オーガニック・ヘルシー」のノウハウを結集した自信作であります。



写真上:ベジタフルコース  
写真下:アボカドと海老のチーズクリーム

### 麦とオリーブ





ドトルコーヒーショップ

ミラノサンドA 390円

—生ハム・ボンレスハム・ポローニャソーセージ—

ハム・ソーセージのアラカルトをサンドしたシンプルで食べやすいサンドイッチ。生ハム（豚モモ肉）、ボンレスハムとともに挟むポローニャソーセージは牛肉の配合比率をあげてしっかりした味を強調し、粗挽きブラックペッパーで風味を仕上げました。



ミラノサンドB 390円

—海老とサーモンのバジルソース—

人気食材のエビ、さくらのチップで香り付けしたスモークサーモン、ミックス野菜のシャキシャキとした食感のサンドイッチです。フランス産のフレッシュバジルのソースでアクセントをつけました。



ドトルカフェオレ 270ml

ミルクとよく合う南米産アラビカを厳選し、飲みごたえのある270ml容量を選択しました。コーヒー、砂糖、ミルクの絶妙なバランスでスッキリした味わいに仕上げております。



株式会社ドトルコーヒー



エスプレッソラテ 200ml

専門店がつくるエスプレッソをコンセプトに、エスプレッソ豆を従来品の1.7倍使用。贅沢に使用したコーヒーに負けない乳（生乳、生クリーム、脱脂粉乳）をバランスよく加えました。



さんるーむ 「菜食定食」

ヘルシーな豆腐ハンバーグの他に、旬の食材を使った季節のおかずが三品揃った、お弁当スタイルの定食。汁物は、「とろろ」または、野菜をたっぷり使った自家製「野菜スープ」のどちらかをお選びいただけます。



洋麺屋五右衛門 「たらこのカルボナーラ」

洋麺屋五右衛門の定番人気メニュー。たっぷりのたらこクリームが絶妙に合う和風のカルボナーラに仕上げました。たらこや胡麻の食感とトッピングのフレッシュ野菜が新鮮で、何度食べても飽きないスパゲッティです。

# CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期 2008年2月29日現在
<b>資産の部</b>	
流動資産	26,529
固定資産	64,628
有形固定資産	29,865
無形固定資産	1,521
投資その他の資産	33,241
資産合計	91,158
<b>負債の部</b>	
流動負債	12,299
固定負債	3,364
負債合計	15,664
<b>純資産の部</b>	
株主資本	76,030
資本金	1,000
資本剰余金	25,858
利益剰余金	49,537
自己株式	△365
評価・換算差額等	△540
その他有価証券評価差額金	△540
少数株主持分	3
純資産合計	75,493
負債及び純資産合計	91,158

### 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期 2007年3月1日から 2008年2月29日まで
売上高	101,314
売上原価	42,304
売上総利益	59,010
販売費及び一般管理費	49,005
営業利益	10,004
営業外収益	513
営業外費用	83
経常利益	10,434
特別利益	504
特別損失	1,267
税金等調整前当期純利益	9,670
法人税、住民税及び事業税	4,480
法人税等調整額	△263
少数株主損失	0
当期純利益	5,453

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期 2007年3月1日から 2008年2月29日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,110
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,748
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,209
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14
現金及び現金同等物の減少額	△862
現金及び現金同等物の期首残高	17,616
現金及び現金同等物の期末残高	16,754



### 連結株主資本等変動計算書(要旨)

(2007年3月1日から2008年2月29日まで)

(単位:百万円)

科 目	株主資本					評価・換算差額等		少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2007年3月1日残高	1,000	29,192	44,896	△3,145	71,942	278	278	—	72,220
<b>連結会計年度中の変動額</b>									
剰余金の配当	—	—	△812	—	△812	—	—	—	△812
当期純利益	—	—	5,453	—	5,453	—	—	—	5,453
自己株式の取得	—	—	—	△826	△826	—	—	—	△826
自己株式の処分	—	△3,333	—	3,607	273	—	—	—	273
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△818	△818	3	△815
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	—	△3,333	4,641	2,780	4,088	△818	△818	3	3,273
2008年2月29日残高	1,000	25,858	49,537	△365	76,030	△540	△540	3	75,493

# CORPORATE PROFILE

## 会社概要

### 株式会社ドトール・日レスホールディングス

商号	株式会社ドトール・日レスホールディングス	取締役	監査役
設立	2007年10月1日	代表取締役会長	山内 実
資本金	10億円	代表取締役社長	星野 正則
従業員数	1,860名(連結)	取締役	大林 豁史
本社	東京都渋谷区猿楽町10番11号 03-5459-9178(代表)	取締役	鳥羽 豊
事務所	東京都渋谷区神南一丁目10番1号 03-5459-9178(代表)	取締役	稲森 六郎
URL	http://www.dnh.co.jp	取締役	木高 毅史
		(社外)取締役	財前 宏
		(社外)取締役	稲垣 道子
		監査役	高橋 圭介
		監査役	宮林 哲夫
		(社外)監査役	梶川 浩
		(社外)監査役	吉島 重鐵

### 株式会社ドトールコーヒー

商号	株式会社ドトールコーヒー
設立	1962年4月
資本金	111億41百万円
従業員数	1,044名
本社	東京都渋谷区神南一丁目10番1号 03-5459-9008
URL	http://www.doutor.co.jp

### 日本レストランシステム株式会社

商号	日本レストランシステム株式会社
設立	1973年6月
資本金	35億5百万円
従業員数	816名
本社	東京都渋谷区猿楽町10番11号 03-5456-0123
URL	http://www.n-rs.co.jp

### 業態別店舗数 ドトールコーヒー

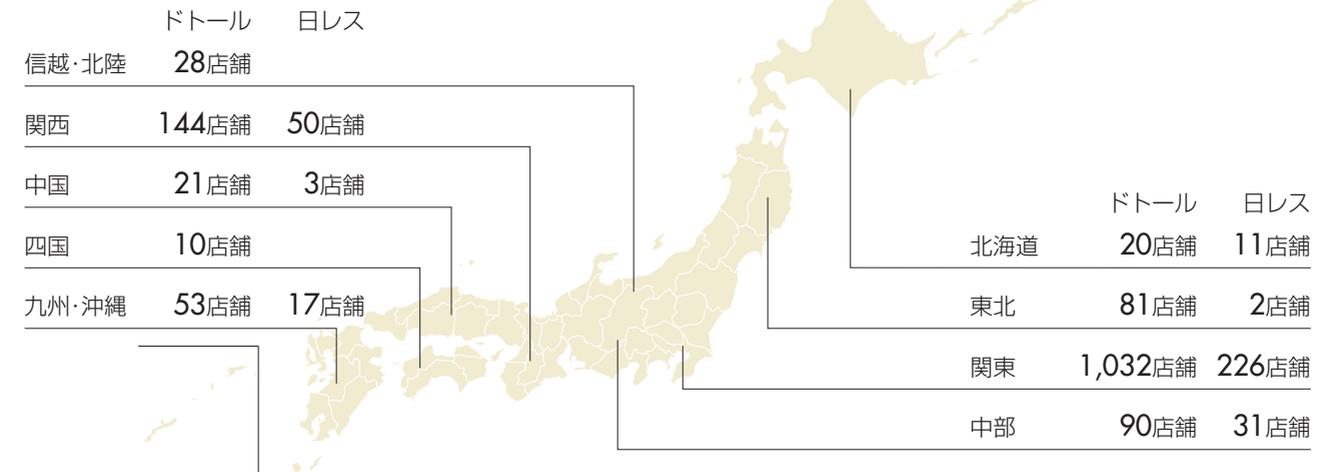
業態名		2008年2月
ドトールコーヒーショップ	全店 うちFC	1,147 998
カフェ コロラド	全店 うちFC	117 116
オリーブの木	全店 うちFC	12 5
エクセルシオール カフェ	全店 うちFC	178 35
カフェ マウカメドゥズ	全店 うちFC	15 0
その他	全店 うちFC	10 3
小計	全店 うちFC	1,479 1,157

### 日本レストランシステム

業態名	2008年2月
洋麺屋 五右衛門	132
さんるーむ	29
にんにく屋 五右衛門	16
卵と私	19
モーツアルト	16
その他	128
小計	340

※日本レストランシステムの業態は全て直営です。

### 地域別店舗数



# STOCK INFORMATION

株式情報(2008年2月29日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	50,609,761株
株主数	20,966名

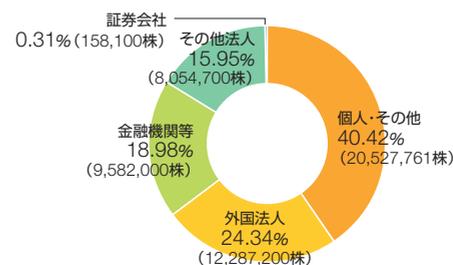
## 大株主

	持株数(千株)	出資比率(%)
大林 裕史	6,748	13.34
鳥羽 博道	5,510	10.89
ハービンジャー・キャピタル・パートナーズ・マスター・ファンド・リミテッド	3,931	7.77
株式会社マダム・ヒロ	3,728	7.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,309	4.56
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,817	3.59
日本たばこ産業株式会社	1,320	2.61
日興シティ信託銀行株式会社	1,039	2.05
ザチエス マルケットバンク エイロパニ エス エル ム コス アカガ	975	1.93
山内 実	924	1.83

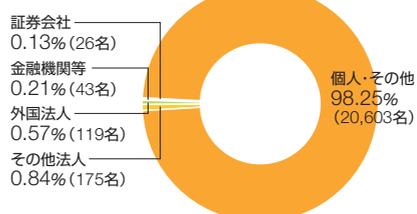
\*出資比率は自己株式(8,175株)を控除して計算しております。

## 株式・株主分布

### 所有者別株式分布



### 株主構成



## 株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月に開催します。
基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当金 2月末日 中間配当金 8月31日
	そのほか株主総会を開催する必要がある場合は、あらかじめ公告して基準日を定めます。
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 〒135-8722
郵便物送付先	東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
公告掲載方法	電子公告により行います。(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。)
電子公告アドレス	<a href="http://www.dnh.co.jp/ir/koukoku/index.html">http://www.dnh.co.jp/ir/koukoku/index.html</a>

## 株主優待のご案内

当社の株主優待制度は下記のとおりです。

### 1 対象株主

毎年2月末日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主様を対象とさせていただきます。

### 2 優待制度の内容

保有株数	内容
100株以上500株未満	2,500円相当の商品
500株以上	4,500円相当の商品

### 3 贈呈時期

毎年6月の贈呈を予定しております。

## 中間配当実施のお知らせ

当社は、このたび、株主の皆様への利益還元を機会を増加させるため、次期より中間配当を実施することといたしました。中間配当は、2008年8月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者を対象とします。また、配当額については1株につき13円を予定しておりますが、中間決算に関する取締役会(2008年10月予定)で正式決定いたします。

## 株式に関するお知らせ

当社株式に関するお手続き(単元未満株式の買取・買増について、配当金のお受取について)に関しては、下記ご案内をご参照いただきますようお願いいたします。

### 単元未満株式の買取・買増について

単元未満株式(100株に満たない株式)の買取・買増を請求することができます。

当社では単元未満株式を買い取らせていただく「買取制度」と、不足分を買い増していただき単元株式(100株)にまとめる単元未満株式の「買増制度」をご利用いただけます。

### 配当金のお受取について

昨年10月1日の日本郵政公社の民営化により従来の「郵便振替支払通知書」が「配当金領収証」に変更となりました。なお配当金については、最寄の「ゆうちょ銀行」または「郵便局」の貯金窓口にてお受取いただけます。

配当金は、支払い開始日から満3年を経過しますと当社は支払い義務を免れ、支払いに応じかねますので、確実に配当金をお受取いただける銀行等預金口座への振込、またはゆうちょ銀行の貯金口座への振込をおすすめいたします。

上記の手続き方法および上記以外の株式に係る手続きについては、下記の株主名簿管理人にお問合せください。なお証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引の証券会社へお問合せください。

お問合せ先(株主名簿管理人)  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
フリーダイヤル 0120-288-324  
取次所 みずほ信託銀行株式会社  
みずほインベスターズ証券株式会社  
本店および全国各支店